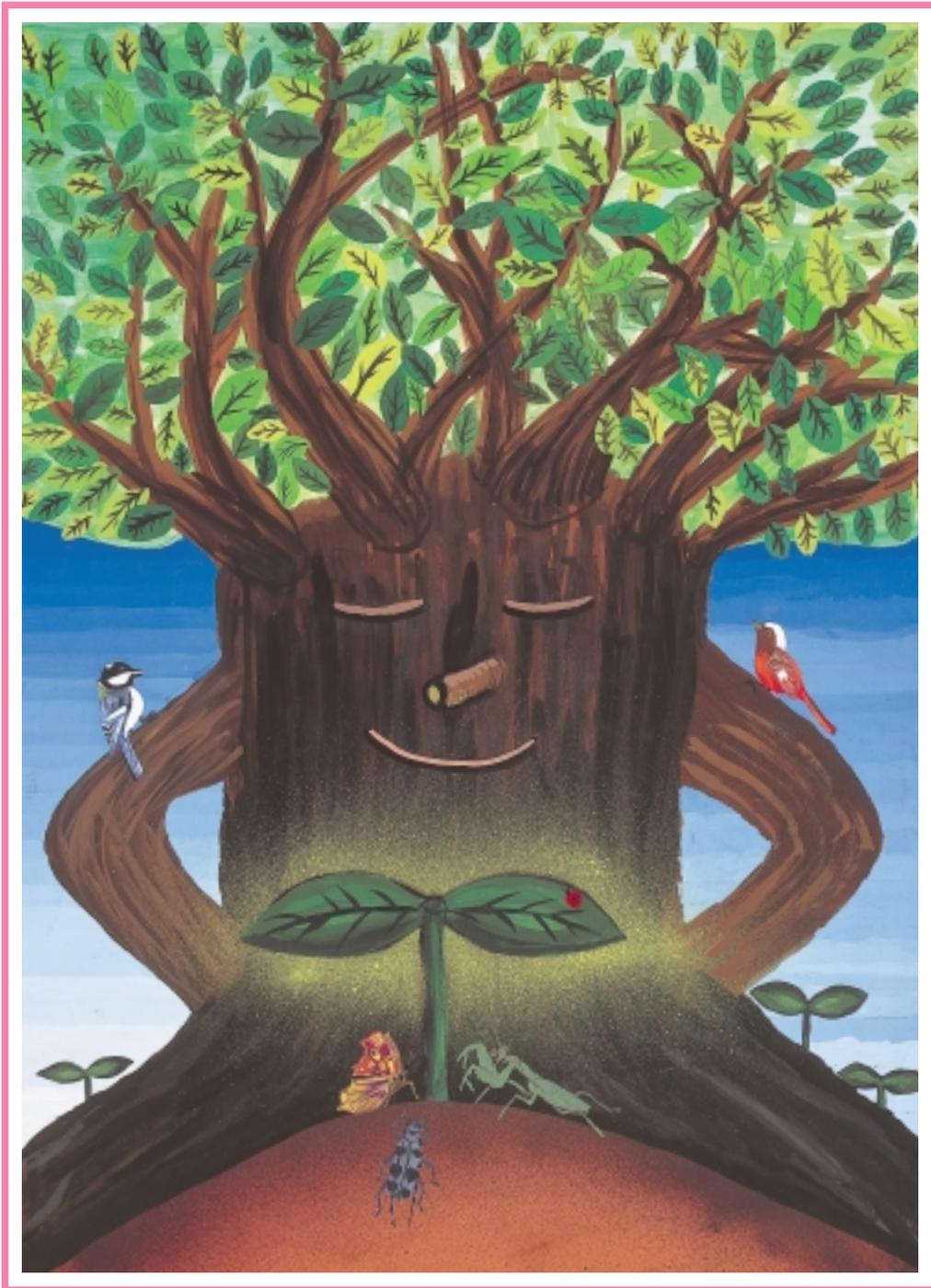




第26号

2009.3



社団法人 千葉県緑化推進委員会

木々は楽しい、不思議、気持ちいい。

子どもも大人も忙しい時代ですが、自然の中に飛び込むと、疲れた体や気持ちが元気になるものです。幸い、千葉県には海も森もあります。自然がいっぱいです。そこで今回は、森にスポットをあて、森での楽しみ方のいろいろをご紹介したいと思います。ナビゲーターは樹木医で千葉県森林インストラクター会の小池さん。ここでご紹介するのはたくさんある楽しみ方のほんの一例です。参考にさせていただいて、ぜひ、森へ遊びに行ってみてください。

ネイチャーゲーム

ネイチャーゲームは、アメリカのナチュラルリスト、ジョセフ・コーネル氏によって考案された、さまざまな感覚を使って自然を直接体験し、自然への共感を育む活動です。140種類以上もの活動があり、四季折々に森や公園で子どもと大人と一緒に自然とふれあうことができる自然体験活動の一つです。代表的なゲーム(プログラム)を一つご紹介します。

進め方

1. 3~4人のグループにわけます。
2. カードと筆記用具を配り、ルールを説明します。
 - a カードに書かれてあるものを探します。
 - b 触ったりにおいを嗅いだりして、感覚を十分に使います。
 - c グループ全員が確認できたら、カードに印をつけます。
3. カードの内容を確認して、探す範囲と集合場所を伝えてからスタートします。
4. 集合の合図の後、発見したものについて話しあいます。
5. ピンゴの数を発表してもらいます。

3月17日に当委員会が実施した「森林の活用」というテーマの講習会でもネイチャーゲームを取り入れました。思いがけない発見や森とのふれあいで参加者も自然に笑顔になります。



「フィールドピンゴ」引用承認申請番号98

ねらい:さまざまな感覚をとぎすまし、観察力を高めます。

用意するもの:フィールドピンゴカード(日本ネイチャーゲーム協会で購入可)、筆記用具
場所:野外ならどこでも可
人数:3人以上
対象年齢:親子であれば4歳以上
実施時間:30~60分



ネイチャーゲームには、その楽しさをナビゲートしてくれるネイチャーゲーム指導者がいらしゃいます。講師派遣などは、千葉県ネイチャーゲーム協会に問い合わせると相談にのっていただけますよ。

ホームページアドレス

<http://www.chibaken-nature.com>

小池さんのコメント

フィールドピンゴで、「糸をひく葉っぱを見つけよう」というのがあった時、ちぎると糸をひくミズキ科の葉っぱを見つけてくるだろうと予測。ところがとある子どもさんが見つけてきたのはクモの巣のついた葉っぱ。人の発想にはいつも楽しく驚かされますね。

取材協力:(社)日本ネイチャーゲーム協会

ホームページアドレス <http://www.naturegame.or.jp>

NATURE GAME

ネ イチャークラフト

木の実、花、枝、葉っぱ、つる…。森にはいろいろなものがあります。そんな森の素材を使って、造形家になってみましょう。ルールはありません。好きなものを使って自由な発想で作っていきましょう。また子どもさんなら昔なつかしいおもちゃづくりも楽しいですね。ここでは2例を紹介しますので参考にしてください。材料探しに目を凝らしているだけでも、日頃、目につかない発見があったりして…。



ネイチャークラフトは、どこにでもあるような木の枝、実からでも作ることができる

大人も子どももついつい夢中になってしまうネイチャークラフト。当委員会開催のイベントにて



アイデア次第でこんなアート作品にも



松ぼっくり、アメリカフウで作った愛らしい作品。ピンクの口はドングリの笠



竹笛の作り方(ダック笛)



1. 大小の竹を用意します
メダケとアズマネザサ



2. 小さい方の竹を斜めに切り(3cm)、
切り口をヤスリで磨きます



3. ボンドでフィルムを貼り付け、
竹の大きさに切り弁を作ります



4. 弁を大きな竹の後ろから
差込みます



5. 弁の反対側に穴を開けて



6. ヒモを通して完成です

小池さんのコメント

ドングリのコマ。単純だけど、これが子どもたちには大人気。どうしたらよく回るか、夢中になって研究しますよ。それに、おしゃべりの苦手な子がクラフトを上手に作ったりして。ああ、この子は作品がおしゃべり上手なんだなあって思いますね。子どもにはいろいろな素質があるんですよ。自然の中で遊んでいると、子どものそれぞれの個性がよくわかります。



ドングリコマの作り方



1. コマを作る材料
ドングリ、爪楊枝、錐、ボンド



2. 錐で穴を開け



3. ボンドをつけて、爪楊枝を
差し込み



4. 好きな模様をつけて完成

自然観察

森は「?」や「!」でいっぱいです。

自然観察は文字通り樹木や山野草、昆虫や鳥などを観察し、見たもの、聴いたもの、触ったものなど、その特徴を五感で楽しんだり、さらにはそれを知識として蓄積し、より深く追い求めたり、新たな発見を探したり...

楽しみ方は人それぞれですが、そんな楽しみの虜になる人が後を絶ちません。ちょっと時間をかけてゆったりと森の中を観察してみましょう。森のヒミツも見つかるかも知れませんよ。

森の中を歩いてみると、数え切れないほどの植物(動物)の存在を感じるはず。名前や特徴など、より詳しく知りたい方はポケット図鑑などを片手に散策するのもいいですね。

県内ではさまざまな時期、場所で「自然観察会」が開催されています。そういった観察会では専門の指導員が案内してくれますので、初めての方でも気軽に参加できますし、楽しみながら自然に関するさまざまな知識も得られます。自然観察のための強い味方になってくれる団体を2つご紹介しますので、まずはアクセスしてみてください。

ホームページ:千葉県森林インストラクター会

<http://chiba-shinrin-instructor.com>

千葉県自然観察指導員協議会

<http://www5e.biglobe.ne.jp/sizenchi>

自然観察会などで、木々や葉っぱなどを観察し、特徴(特性)を知ると、それを活かした遊びに発展させることもできますね。3ページでご紹介したクラフト作りに通ずる要素もありますが、右ページにいくつかご紹介しましょう。



道端でサワガニでも見つけたかな?

特徴的なカクレミノの葉っぱ(左)。同じ木に付いているのにずいぶん形が違うぞ(右)。そんなことに気付くのも自然観察会のおもしろさ



「この葉っぱはおもしろいですよ」「お、この木の実はきれい!!」自然観察会などに参加すると、指導員が案内してくれるので安心して楽しめるうえ、たくさんの知識が得られる

ツリーハウス

子どもの頃、秘密基地を作りましたか?

森の大きな木に、板や枝を使って自分たちの空間を作る...。どうしてでしょうか、子ども心に無上の幸せを感じたものでした。その秘密基地作りが今、密やかなブームになり始めています。

この道に詳しいのは、やはり森林インストラクターの小林正幸さん。昨年、船橋県民の森で行われた6回のツリーハウス造りはすべて満員で終了。清和県民の森で行われた折も大盛況でした。企画される数はまだまだ少ないようですが、ぜひ参加してみたいですね。



森林浴

大人の森の楽しみ方の代表格は森林浴ですね。森林浴の効果は科学的なものより精神的なものが大きいといわれてきました。科学的な効能としては樹木が発散するフィトンチッドと呼ばれる物質が作用しているとされています。特にマツ、ヒノキなどの針葉樹林ではフィトンチッドの発散量が多いといわれています。精神的な効能としては、とにかく気持ちの良さでしょう。森や林に入ると、本当に不思議なほど気持ちが安らぎますね。

森林浴というのは1982年に当時の林野庁などによって提唱されたものですが、あっという間に社会から認知されました。

さらに2004年以降、森林浴の効果を実科学的に検証し、予防医療などに役立てようという取り組みが始まりました。これは「森林セラピー」といって、多分野から注目を集めています。



木の葉の遊び



川舟
「ササ」



親子舟
「ササ」



ゾウリ
「タイサンボク」



キツネ
「タイサンボク」



糸を引きます
「ミズキ」



葉書き(字が書けます)
「タラヨウ」



森のランチ
という遊び
森に落ちている木の实、葉、小枝等集めてランチを盛り付けましょう。作語並べて、作者の思いを語り目で食べましょう。用意する物は紙皿だけで良く簡単にどこでも手軽にできます

小池さんのコメント

森を観察するとおもしろいものがたくさんあります。不思議だな!なんでこんな形なんだろ?いろいろと疑問を持ち、それを解決する体験を重ねます。森の中で自然体験することは、自らの力でさまざまな問題にも対処する、「生きる力」を養うことにつながると、私は思います。

森セラピー

千葉県では、森林の持つ教育や健康・癒し、レクリエーション等の多様な機能を活用して、幅広い分野で森林の利用を進めるため、森林の癒し効果を高齢者、幼児保育、健常者等の各領域において、検証してきました。

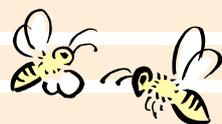
そうした結果を踏まえ、平成20年度事業として「健康と癒しの森フォーラム」・「健康と癒しの森選定調査」・「千葉県らしい森林療法の推進方策の検討会議」などを開催。特に「健康と癒しの森30選」はまもなく決定されるとのことです。

気をつけましょう。

ほかにも自然にはさまざまな危険が存在します。だからといって尻込みすることはありません。森に慣れている先輩や森林インストラクターなど、森を案内してくれる皆さんがいれば、安全に森を楽しむことができます。

森はいつでも同じ顔ではありません。季節によって、時間によって、見る角度によって、たくさんの表情で出迎えてくれます。楽しさ無限大の森。さあ、森へ出かけましょう。

こんなとこに気をつけて



さて、ここまで森の楽しさをいろいろとご紹介してきました。ただ、自然には注意しなければならないこともあります。

はじめに、森ならどこでも入ってよいというわけではありません。県民の森や市民の森など、一般にオープンになっているところは大丈夫ですが、個人所有の森には勝手に入ることはできません。

次に、自然の中で遊ぶためには天候に気を配りましょう。落雷、強風、大雨などが予想されるような時は森に入るとは避けましょう。体調が悪い時に無理をして出かけることも禁物です。

またハチ、ヘビ、ケムシ、ウルシなど、危険な動植物にも



今回ナビゲーターして下さった小池英憲さん。樹木医、千葉県森林インストラクター会会員。佐賀県出身。緑化産業に勤務し、森や山へ入る機会が多かったが、その際、案内する人が上手だと森はこんなにも楽しいのかと実感。現在、森林インストラクターとして活躍中。また理想の里山づくりなども行っている。さらに今後は森林セラピーなど、森林の効用を広めたいとのこと。

参考図書 / 「みどりのボランティアあぜん手帳」
「自然と遊ぼう 森の楽校」

緑

自

慢

「これが小学校？入口はどこだろう？」。そんな第一印象のいには野小学校。校門もフェンスもなく、木とガラスをふんだんに使ったとてもモダンな校舎です。

“いには野”。あまり聞きなれない言葉ですが、千葉ニュータウンの東端にある、印旛村いには野地区にある小学校です。“いには”というのは万葉集にも出てくる印旛の古称“印波”（いには）に由来しているそうです。開校したのは9年前。当初は57人だった児童数が現在は約10倍の544人にまで増えています。校長先生は綿貫先生。全国小中学校環境教育研究会会長も務められており、環境学習への取



樹木札の制作風景。小さな札にたくさんの思いを込めて...



教室前に作られた緑のカーテン

り組みには並々ならないものがあります。その一つが緑のカーテン。

校舎のデザインがとにかくユニークで、教室と廊下を隔てる壁やドアはなく、窓は大きく床まで、といった具合。日差しが入って明るいのですが、夏は暑く感じることも…。そこで緑のカーテン作りを始めたのが2年前。

- 直射日光から教室を守り室内温度を下げる
- 地球温暖化防止に役立つ
- 植物の成長を観察できる
- 写生の題材になる

などメリットはいっぱいですが、やはり植物を育てるには手間暇がかかるため、工夫も必要です。通常、緑のカーテンを作るにはネットを張りますが、校

長先生が考えた工夫は、パイプを組んだ枠を併用したことです。「この辺りは風が強いですし、丈夫なネットを毎年買っていたら高くつきますしね」。持続性も考えられているのです。カーテンになってくれたのはゴーヤやアサガオといったツル植物。昨年はヘチマやトウガンも加わりました。「ヘチマは水が通る道の観察にも使えます。理科の教材にもなりますよ」とのこと。もちろん子どもたちにも大好評。今年の夏はどんなカーテンになるのでしょうか。

また昨年は樹木札の制作と設置も行いました。理科の研究校として4年生が行ったもので、札は当委員会からの提供品です。子どもたちは木の名前と思いの絵を札に描き、校庭内の木々に取り付けました。「札を取り付けた位置がみんな1mちょっとの高さなのです。これは子どもの目線の位置です。背伸びして協力し合って取り付けしていました。身近な自然にどんな木々があるのか、とてもよい勉強になったと思いますし、低学年の子どもたちの興味もひいています」と校長先生。その後、森林インストラクターの協力で樹木マップも作ったそうです。

校内には地域の方が耕すコミュニティーガーデンや、全学年向けの学級園もあります。特に1・2年生の学級園活動では、八街市の高校生が先生になってくれたとのこと。さらにはビオトープには鳥たちが集まるようになり、子どもたちの人気スポットになっているそうです。このビオトープ、いつかミニ印旛沼にしたいとの野望もあるとか。

フェンスがなくて安全面は？との質問に「子どもの安全は人の目で守ります」と。人のつながりの濃さ、緑の濃さが、やさしくて強い気持ちを育てるのだと教わりました。

オススメします。この本



「自然と遊ぼう 森の楽校」

著者／小林 昶

森ってどんなところ？ 森にはどんな木があるの？ 森のエビフライってなあに？ 足あとやフンでどんな動物かわかるって本当？ そんな森の不思議を知るための小さな入り口のような本。環境学習や家族での森遊びに必要な、大人たちへのアドバイスも収録。写真やイラスト満載で、わかりやすく楽しい本である。

環境学習や家族での森遊びに必要な、大人たちへのアドバイスも収録。写真やイラスト満載で、わかりやすく楽しい本である。

山と溪谷社 1,680円



「みどりの手帳」

指導／森林総合研究所

「自然観察の手引き」「森林のしくみ 林業体験」「野外活動の手引き」の3つのテーマに分け、樹木の種類、昆虫のさがし方、森林の贈りもの、キャンプのし方、ロープの使い方、けがと病気の手当などについて、イラストを使ってわかりやすく解説している。野外体験や自然教育の指導者、学校の先生、自然愛好家には必携の1冊。

（社）国土緑化推進機構

上記の本、「自然と遊ぼう 森の楽校」を1名の方に、「みどりの手帳」を5名の方にプレゼントします。ハガキに、希望する本、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、（社）千葉県緑化推進委員会「プレゼント」係へご応募ください。また、グリーンえっせんすをどこでご覧になったか、ご意見、ご要望もお書き添えください。あて先は8ページ右下参照。締め切りは7月末日（当日消印有効）。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

企業の中の緑

株式会社千葉銀行
(千葉市)

千葉銀行は、従業員数4,146人。国内では172店舗、海外にも3店舗を有する、千葉県を代表する企業です。

設立は昭和18年。平成15年には設立60周年を迎え、「緑」「企業」「信頼」をテーマにさまざまな活動を行いました。たとえば、富津市の「ちばぎんの森」での植樹、市川市大洲防災公園や千葉市蘇我球技場（フクダ電子アリーナ）への樹木の贈呈、各店舗や店周辺での緑化活動など。このうち「ちばぎんの森」での植樹活動には、頭取をはじめ行員・OBが多数参加し、7,200本ものヒノキの苗木を植えました。現在でこそ企業参加による森林づくりはその輪が広がりつつありますが、「ちばぎんの森」は県内では先駆的な存在です。

この「緑」「企業」「信頼」を育てる60周年記念事業がほぼ完了したことを受け、平成19年からは「たいせつにします、ひと、みず、みどり。」をキャッチフレーズに、新たな地域貢献活動がスタートしました。「ちばぎんの森」における下草刈り等の育樹活動、新設公園などへの樹木の贈呈などは引き続き行われています。業務的には「環境定期預金」といった商品を発売しました。なんとたった2日で完売したそうです。千葉銀行と預金者の環境への意識がぴったり合致した企画だったようです。

また、本店横の市道（国道入口からJR千葉みなと駅前まで）の歩道拡幅に伴い、歩道に植える街路樹として桜（ソメイヨシノ）の樹36本を千葉市に寄贈。平成21年2月、無事、植樹工事が行われました。今年の春は、千葉みなとに新しい桜の名所が誕生します。さらに、3月オープンのはら台支店では太陽光発電を採用。金融機関の店舗としては県内初の設置で、CO削減に取り組みます。

こうした銀行ならではののみどりや環境に対する社会貢献は、実はかなり以前から行われてきました。「ちばぎんみどりの口座」（平成5～6年）や「ちばぎんチャリティバザー」などを通じての、当委員会が運営する「千葉県緑化基金」造成へのご協力もその一つです。

「海も山も、いつまでもきれいでいてほしいですね。自然を失うのはあっという間ですが、取り戻すには時間がかかります。一人ひとりが、そして企業がしっかり取り組まなければ。千葉銀行は地域の金融機関として、引き続き大切にしていきますよ。人も水も緑も」。

広報部の橋本さんの目が頼もしく輝きます。



本店横の歩道に誕生した桜並木。駅までの景色が一変した



「ちばぎんの森」での作業。きれいになった山を眺めると爽やかな達成感があるとのこと

（社）国土緑化推進機構を中心に、全国の緑化推進委員会が展開している「もりのくに・にっぽん」運動。森林を守り育て、その恵みを活かして、持続的に循環させようというものです。そこで、森林に関わる人とそこから生まれた文化に注目し、全国から「森の名手・名人100人」を選定。今年度、千葉県では2名が名手・名人に選ばれました。

広瀬信蔵さん（銚子市）

竹箆づくりが評価され、加工部門の名手・名人に選ばれた。竹箆職人の家に生まれ、幼年から箆づくりを手伝い始める。銚子市の特産物であるキャベツ出荷用のキャベツ箆は、最盛期には年間3万個を作った経験も。竹箆は、地域により寸法・規格などが異なるが、約60年間にわたり、その時代のニーズに合わせて多くの種類の竹箆を作り続けてきたため、材料の伐採から箆づくりまで一貫した技術を持つ。

椿一二さん（神崎町）

安全・おいしさにこだわった原木シイタケ栽培と、シイタケオーナー制度など地域の活性化にも努めてきて、森の恵み部門の名手・名人に選ばれた。学校卒業後、地域の先達に教わりながら、シイタケ栽培を開始。最盛期にはほだ木7,500本を使用し、1kg/本のシイタケを収穫した。その後、量から質へ転換。安全・おいしさにこだわった原木シイタケのみを生産、町でただ一人の生産者として日々奮闘している。

森の
名手・名人

**緑の募金でふせごう地球温暖化！
春季・緑の募金にご協力ください**

平成21年度 緑の募金運動

■目標額3,600万円



3月1日から5月31日まで県内全域で「春季・緑の募金」運動を行っています。募金運動の方法は各市町村で異なりますが、募金は当委員会、各市町村窓口、募金箱設置にご協力の企業・団体の事業所等でも受付けています。

地球温暖化防止をはじめとする現代におけるみどりの役割をご推察のうえ、各種緑化・森林整備推進のため、県民の皆様のご理解と暖かいご支援をお願いいたします。



平成20年度の募金総額は36,839,387円に達しました。お寄せいただいた募金は、学校や公園といった公共施設の緑化や緑の少年団に代表される森林環境学習、また森林ボランティア活動の支援などに大きく役立てられました。また、その一部は世界規模での緑化や森林の整備にも役立てられています。



**平成20年度公共施設等の
環境緑化事業を実施しました**

(社)ゴルファーの緑化促進協会並びに県内協力ゴルフ場のご協力のもと、プレイヤーによる緑化協力金を原資に、市町村から希望が寄せられた下記4ヶ所の公共施設などに植樹を行いました。

流山市	流山市文化会館	ハナミズキほか370本
睦沢町	女ヶ堰農村公園	セイヨウアジサイ185本
長生村	一松保育所	ケヤキ6本
木更津市	江川総合運動場	マテバシイ50本



**国土緑化運動ポスター原画コンクール
展示会のお知らせ**

平成20年度国土緑化運動ポスター原画コンクール入賞作品展示会を下記のとおり実施します。次代を担う子どもたちの緑や自然に対する思い・メッセージにあふれた素晴らしい作品の数々をどうぞご覧ください。

本年度は過去最多、13,538点の応募をいただきました。また、当県推薦作品が全国コンクールでも入賞するなど極めて優秀な成績を修めています。

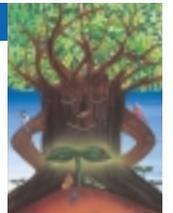
当コンクールはH21年度も実施します。たくさんのご応募をお待ちしております。

期間	場 所	展示作品
4/2(木) ~4/9(木)	我孫子市寿2-3-5 「千葉信用金庫 我孫子支店」 <small>休業日は除く</small>	特別賞 協賛賞 の計15点
4/15(水) ~4/22(水)	千葉市中央区市場町1-1 「千葉県庁19階県民展示コーナー」 <small>土、日は除く</small>	特別賞 特選 の計36点
4/25(土) ~5/10(日)	印西市原山1-12-1 「県立北総花の丘公園花と緑の文化館内」	特別賞 特選 入選 協賛賞 の計75点
5/13(水) ~5/21(木)	千葉市中央区中央2-4-1 「千葉信用金庫 本店」 <small>休業日は除く</small>	特別賞 協賛賞 の計15点
5/26(火) ~6/2(火)	木更津市中央1-4-6 「千葉信用金庫 中央支店」 <small>土、日も窓口営業(10:00~16:00)</small>	特別賞 協賛賞 の計15点
6/9(火) ~6/21(日)	千葉市中央区青葉町977-1 「県立青葉の森公園 公園センター内」	特別賞 特選 入選 協賛賞 の計75点
7/2(木) ~7/9(木)	市原市姉崎660-1 「千葉信用金庫 姉崎支店」 <small>休業日は除く</small>	特別賞 協賛賞 の計15点
7/13(月) ~8/3(月)	柏市柏の葉4-1 「県立柏の葉公園 公園センター内」	特別賞 特選 入選 協賛賞 の計75点
9/1(火) ~9/30(水)	千葉市稲毛区天台6-5-2 「千葉県青少年女性会館」 <small>休館日は除く</small>	特別賞 特選 協賛賞 の計39点

*会場等の都合により展示期間等が変更になる場合もございますので、最新の情報は当委員会ホームページでご確認ください。

表紙の絵

表紙の作品は平成20年度国土緑化運動ポスター原画コンクールにおいて、中学校の部、千葉日報社賞を受賞した、岡崎侑加子さん(中1)の作品です。



グリーンえっせんす 第26号

2009年3月31日発行

発行/(社)千葉県緑化推進委員会

URL <http://www.c-green.or.jp/>

〒299-0265 袖ヶ浦市長浦拓2号580-148

TEL.0438-60-1521 FAX.0438-60-1522

印刷/凸版印刷(株) TEL.043-350-5611